

■児童・生徒の学力の状況

○今年度の「全国学力・学習状況調査」では、これまでの全国平均程度から都平均超えまで向上した。
 ○数学では学力が二分化する傾向が見られる
 ○意欲的に学習に取り組む生徒が多いが、課題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを説明することについては、苦手な生徒が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○基礎基本の定着に課題のある生徒に対する効果的な授業形態や指導法について工夫する必要がある。
 ○自ら学ぶ生徒の育成や読み解く力や説明する力の育成をめざした指導を工夫する必要がある。
 ○3観点の学習評価を生かした指導で評価と支援の一体化を研究していく必要がある。
 ○クロムブックを活用した授業や家庭学習をより積極的に推進していく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区授業スタンダード」に基づき、生徒に基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
 ○学習指導要領の理念を受け止め、これからの社会を生き抜ける学力を生徒に身に付けさせていく。
 ○特に、教科書や資料を読み、理解し、考え、判断し、自分の言葉で表現し、伝えていく力を高めていく。そのためにも書く機会や話し合う機会を増やしていく。
 ○教科センター方式の校舎の機能を最大限に活用するとともに探究型の学習活動を重視し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう授業改善を進める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○指導力向上研究推進校として、OJTを推進し、研修委員会を中心に教員の指導力向上を図る。	○授業の中に「INPUT→THINK→OUTPUT」を設定する。特に子どもが主体的にOUTPUTする場面を設定する。学びのエリアで定めた「柱とする学習活動」に基づき、授業革新を図る。	○iカリキュラムや各教科と教科横断的な単元配列等の工夫を行い、各教科等の学びをSDGsを軸とした探究の時間につなげられるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「読み解く力」の育成については、学びのエリアで設定した「取組の柱」を共通に取り組んでいく。 ○クロムブックの使い方を学びのエリアで共有し、積極的に実践していく。 ○特別な支援が必要な生徒に対して、小中が連携して、学びのエリアで特別支援教育部会を設置し、支援の充実を図る。	○「探究の時間」で課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ、発表等の活動を通して、情報を適切に判断する力を身に付けるとともに、iカリキュラムや各教科と教科横断的な単元配列等の工夫を行い、創意・工夫しながら課題を解決していく力を高めていく。	○クロムブックを活用した個に応じた指導の充実により「個別最適な学び」を実現するほか、対話による異なる考えを得てよりよい学びを生み出す「協働的な学び」の両輪の組み合わせにより生徒が自ら学ぶ主体性を育む。 ○教室での学習の拡充・補完的な学習として家庭学習の定着を図るために、興味関心のある様々な問いを提供し個人学習や他者との協働学習ができるよう、クロムブックを用いる授業を教科横断的に行う。